

日本都市社会学会ニュース

NO. 133 (2026. 4. 1)

事務局：〒731-3195 広島市安佐南区大塚東1丁目1-1

広島修道大学人文学部社会学科 伊藤泰郎研究室

e-mail: urbansociojp@gmail.com TEL: 082-830-1956 (直通)

(振替口座: 00140-4-703976) URL: <https://urbansocio.smoosy.atlas.jp/ja>

日本都市社会学会 第44回大会

歓迎の言葉 松橋達矢 (日本大学)

このたび日本都市社会学会第44回大会を、日本大学文理学部でお引き受けすることとなりました。日程につきましては、2026年9月12日(土)・13日(日)に開催する運びとなりました。数年ぶりの週末開催となりますので、ご予約の際はご留意いただけますと幸いです。

日本大学は、1889(明治22)年に創立された日本法律学校を前身とする、16学部86学科・学生総数約7万5千人(通信教育部含む)を擁する総合大学です。学部ごとにキャンパスが分かれているため、各学部が独立したひとつの大学のような様相を呈しています。1901(明治34)年設置の高等師範科を前身とし、世田谷区桜上水にキャンパスを構える文理学部では、文・社・理にまたがる18学科、約8千4百人の学生が学んでおりますが、1920(大正9)年創設の社会学科は、学部内でもっと多くの学生を抱える学科でもあります。

当学科には現在17名の教員が在籍し、本学会の会員は私を含め4名(小川豊武会員、後藤範章会員、山北輝裕会員)です。少人数ながら、幸いにして第28回大会(2010年開催)の運営を経験した教員が複数名揃う体制にあります。近年は何かとお騒がせすることの多い大学ではございますが、世田谷のキャンパス内は比較的穏やかであり、活発な研究報告や議論、交流等を行うには大変適した環境であることも確かです。

学部生・大学院生共々、過去の大会と同様に、皆様の記憶に永く留めていただけるような充実した大会となるよう準備を進めてまいります。多くの皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

大会企画(企画委員会報告)

企画委員会では、第1回委員会を2025年10月27日に、第2回企画委員会を同年12月25日に、第3回委員会を2026年2月27日にオンラインにてそれぞれ開催し、2026年度大会の企画について検討しました。

第44回大会ではシンポジウム、テーマ部会、ラウンドテーブルを実施します。シンポジウムのテーマは、「〈共生〉を問い直す—都市における排除構造と接続可能性をめぐって」です。第43回大会のテーマ部会で得た知見をふまえて議論を展開します。

また、テーマ部会では「都市/インフラを維持することはいかにして可能か」と題して、都市研究の新たな展開の可能性を探ります。「都市」「インフラ」両者の〈接続〉とは何か、という問いを設定し、より多角的な視点からこれら概念の再検討を行ないます。なお、テーマ部会では報告者を会員から募集します。ぜひ奮ってご応募ください。

ラウンドテーブルでは会員間の交流セッションを行います。多くの会員の参加によって活発な議論が展開されることを期待しています。

(企画委員会委員長 山本薫子)

[ラウンドテーブル]

今年度のラウンドテーブルは、会員間の交流セッションといたします。ここ数年踏襲されてきた研究発表中心のラウンドテーブルとは異なり、学会に参加したみなさんがどなたでも自由に参加でき、それぞれの日々の活動や研究について気を張らないかたちで会話できる場の提供を予定しています。

開催の時間は従来通り 1 日目の昼休みとし、20 名程度が収容可能な教室を 3 つほど確保する予定です。事前に緩やかなテーマを設定した上で各教室に一つのテーマを割り振り、各教室には企画委員が会話のファシリテーターとして在室しております。入退室自由、参加した会員がお昼ご飯を食べながらファシリテーターを中心にテーマに関連する世間話するなかで、意見交換や今後の交流を深めるきっかけになればと思います。

テーマの詳細は当日プログラムに掲載いたしますが、現時点では 1) 都市社会学教育（おすすめのテキスト、調査実習の組み立て方）、2) 調査・研究（調査方法論や最新の理論について）、3) 研究と日々のケア（子育てや介護など）の両立の試み、などを考えています。

(企画担当委員 笹島秀晃・平井太郎・結城翼)

[テーマ部会] 都市／インフラを維持することはいかにして可能か

2025 年度の「『モノ』から都市を考える」をテーマとしたラウンドテーブルの議論では、①よりモノそのものに照準した議論が必要、②物質性の専門知を踏まえた都市社会学の可能性を考えるという二点の問題提起がなされた。こうした問題提起を踏まえ、2026 年度テーマ部会では都市のインフラストラクチャー（以下、インフラ）に着目した企画を実施したい。

ここでいう「インフラ」は道路や水道、エレベーターのような工学的技術が想起されるが、かつて「インフラとしての人」という概念も提起されたように、広範な対象を「インフラ」として抱え込むことが可能である。加えて、「維持」という言葉にしても、予防的な「メンテナンス」、故障時の「リペア」、しばしば人に向けられる「ケア」と多彩な広がりをもつ。

こうした不断のメンテナンス／ケアによってインフラは不可視化され、意識的に注目しなければ対象化されにくい存在となってきた。その意味において、インフラに接近するためには専門知も踏まえた方法論的工夫が必要である。他方で、昨今はインフラの老朽化・担い手不足を背景とした事故・トラブルが社会問題にもなっている。もはやインフラは断続的に可視化され、社会の脆弱化を示しているのかもしれない。インフラのメンテナンスやケアの担い手に焦点を当てるとき、労働や階級、ジェンダー、エスニシティ等の都市社会学の関心とも深く関わり、都市の「下部構造」の政治経済学という論点を抱えている。

こうした点を踏まえると、「都市／インフラを維持することはいかにして可能か」という問いは、さらなる思考を促す。そもそも、インフラを維持することで何が再生産されているのか。都市は人々にとってどのような意味でインフラたり得るのか。そもそも、都市／インフラは維持されるべきなのか――。

本部会は大会 1 日目に開催される。テーマについての会員・非会員の多様な報告を受けて、最後に討論を行う形とする。各報告の時間は自由報告部会に準ずる予定である。議論の間口を広げられるよう、多くの会員の応募を期待したい。

(企画担当委員 中川雄大・仁井田典子・川本綾・林凌・岩館豊)

※テーマ部会では**報告者を会員から募集**します。積極的な申込をお待ちしています。

※申込形式・締切等は自由報告と同じです。報告は自由報告と同じ報告申込フォームで受け付けています。

※申込者多数の場合はセレクションを行います。セレクションの結果、テーマ部会での報告から外れた場合は、自由報告部会で報告することができます。

[シンポジウム]〈共生〉を問い直す —都市における排除構造と接続可能性をめぐって

近年の日本社会では、在日コリアンに向けられてきた歴史的な排外主義が持続する一方で、技能実習生や難民といったニューカマーの移民にも排除の対象が広がり、重層化が進んでいる。このような排除の構造は、単なる民族的差異に基づくものではなく、制度、文化、都市の空間構造に深く根ざしている。

本シンポジウムは、前年度のテーマ部会で議論された「オールドカマーとニューカマーの〈接続〉」という視点を引き継ぎつつ、都市における排除構造の持続性と変容に焦点を当てる。本シンポジウムでは、インターセクショナリティの視点を基軸に、民族・国籍だけでなく、階層、ジェンダー、障害、司法歴、職種など、複数の社会的属性が交差する中で都市空間に生じる排除のメカニズムを可視化することをめざす。

〈共生〉とは、すでに前提としてある理想ではなく、問い直されるべき実践である。都市社会はこれまで、誰の声を聞き、誰の存在を見ようとしてこなかったのか。制度や政策、文化的まなざしは、誰を社会の内側に取り込み、誰を不可視化してきたのか。その選別のロジックを問い直すことが求められている。これらの問いは、同時に都市における「共にあること」をどのように構想し直すのかという根源的な問いへとつながる。この問いを共有することこそが、都市社会学における〈共生〉の再定義へ向けた第一歩となる。

(企画担当委員 吉田舞・佐藤裕・丸山真央・八木寛之)

自由報告の募集

第 44 回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。学部生会員の報告も歓迎します。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7 月発行予定の「学会ニュース」(第 134 号)に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。提出後の内容の修正は受け付けません。

申し込み方法

2026 年 6 月 1 日 (月) 18 時締め切り。メールアドレス、代表者氏名、報告者氏名および所属(共同報告の場合は登壇者に○)、報告タイトル(仮題は不可)、報告要旨(1,000 字以内)、発表時に使用する機器等を以下の報告申込フォームにご記入ください。右下の QR コードからもアクセスが可能です。

第 44 回日本都市社会学会大会 報告申込フォーム

※テーマ部会・自由報告共通です。

<https://forms.gle/cnmmVLzkDqKZoagy5>

申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、くれぐれも余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。



注意事項（必ずお守りください！）

- ・共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申込みを行う前に入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては学会ホームページをご覧ください。
- ・報告要旨は「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみ 1,000 字以内で作成してください。
- ・この要領に反し、本文が 1,000 字を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- ・自由報告部会において、同じ個人または研究グループが、他の学会等にすでに発表したものと同一タイトルまたは実質的に同じ内容を発表することは「二重発表」とみなされることがあります。申し込みの際には注意してください。なお自らの報告が該当するかどうか疑問がある場合には、事前に企画委員会までお問い合わせください。

（事務局担当理事 伊藤泰郎）

会員のみなさまへのお知らせ

若手研究者支援事業「グループへの助成金の支給」の選考結果について

2026 年度の若手研究者支援事業「グループへの助成金の支給」の募集（2026 年 1 月末申し込み締め切り）を行いました。応募がありませんでした。2027 年度の募集は 11 月発行予定のニュース 135 号に掲載予定です。

（事務局担当理事 伊藤泰郎）

理事会報告

2025-6 年度第 2 回理事会が 2026 年 2 月 17 日（火）10 時より Zoom にて開催されました。第 44 回大会の企画（企画委員会報告）、年報 44 号の準備状況（編集委員会報告）、韓国地域社会学会との交流状況（国際交流委員会報告）、社会学系コンソーシアムの活動等々について、各委員長・担当理事より報告がありました。また大会について近年の開催費の高騰や二重報告の注意喚起などの検討が行われたほか、学会ニュース 133 号の内容、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

（事務局担当理事 伊藤泰郎）

編集委員会報告

- (1) 『日本都市社会学会年報』第44号の編集が進んでいます。特集は「危機の時代における都市一食から見える展望」を予定しています。
- (2) J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban/-char/ja/>) で『日本都市社会学会年報』第42号(2024年発行)までが閲覧できます。学会ウェブサイトにもリンクが貼られていますので、ご利用ください。
(編集委員会委員長 堤圭史郎)

『日本都市社会学会年報』第45号 自由投稿論文・研究ノートの募集

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』第45号(2027年9月発行予定)に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」「書評リプライ」の原稿を募集します。会員諸氏の、奮っての投稿をお待ちしています。投稿を希望される方は、本会ウェブページ(<https://urbansocio.smoosy.atlas.jp/ja/regulations>)に掲載されている投稿規定および執筆要項を遵守した原稿を作成のうえ、2026年11月30日までに、原稿のwordファイルおよびpdfファイルの2点を添付して、下記の編集委員会事務局および学会事務局宛にメール送信してください。

(送付先) ([at]を@に変えて送信してください)

日本都市社会学会編集委員会事務局 tsutsumi[at]fukuoka-pu.ac.jp

日本都市社会学会事務局 urbansociojp[at]gmail.com

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

(編集委員会委員長 堤圭史郎)

国際交流委員会からのお知らせ

2026年6月13日(土)、韓国大田市の忠南大学で開催される韓国地域社会学会大会で、日本都市社会学会と韓国地域社会学会による日韓共同セッションがもたれます。テーマは「地方消滅と地域社会における対応」です。本学会から同セッションでの報告者を2名募集します。積極的なご応募を何卒よろしく願いいたします。

(1) 日韓共同セッションの概要

大会：韓国地域社会学会

日時：2026年6月13日(土)

会場：忠南大学(忠清道大田市)

テーマ：共同セッション「地方消滅と地域社会における対応」

報告者：日本都市社会学会から2名

言語：報告言語・発表資料は英語または日本語(日本語の場合は通訳あり)

旅費・宿泊費：原則として報告者の負担なし(宿泊費2泊分は韓国側から、報告者の旅費(エコノミークラス)は都市社会学会から支出されます)。

(2) 応募方法

2026年4月17日(金)までに国際交流委員長の中澤秀雄 (hnakazawa@sophia.ac.jp) まで、報告者・所属・報告タイトル・使用言語(英語か日本語か)を明記し、800字程度の報告要旨を付して、メールで報告希望の旨お知らせください。

(3) 今後のスケジュール

4月末までに、Eメールで報告者決定のご連絡をします。

5月下旬までに、発表PPT(20頁以内)をご送付ください(英語の場合)。

*日本語のPPTで報告する場合は、5月16日までに送付ください(翻訳に時間を要するため。翻訳は韓国側で担当)。要旨やPPTの送付先:中澤(hnakazawa@sophia.ac.jp)

(4) その他

ご不明な点は中澤(hnakazawa@sophia.ac.jp)までおたずねください。

(国際交流委員長 中澤秀雄)

社会学系コンソーシアム報告

社会学系コンソーシアムの第18回評議員会が2026年1月24日(日)にZoomにて開催されました。評議員会(32学協会・64名の評議員で構成)では、2025年度の事業報告・決算報告、2026年度の事業計画・予算案に関する審議が行われ、いずれも異議なく承認されました。理事・監事の選挙も行われ、当学会からは高木恒一会長が理事に選出されました。2026年3月8日(日)には、Zoomウェビナーにて第18回シンポジウム「研究倫理・調査倫理の現在」が開催されました。

また、生物科学学会連合より、広く学会連合組織に対して、若手研究者の待遇改善について学会連合として政府に要望を提出するという提案がなされました。これを受けて、社会学系コンソーシアムが加盟学協会に対して意見聴取を行ったため、会員のみなさまに2026年2月9日(月)にメールで意見を求めたところ、貴重なご意見をいただきました。ご意見は社会学系コンソーシアムにお伝えしました。社会学系コンソーシアムからは、参加学協会からの賛意を受け、今回の若手研究者待遇改善の提案に賛成することを回答したと2026年3月1日(日)に本学会に連絡がありました。

(社会学系コンソーシアム担当理事 伊藤泰郎)

会員異動

新入会員(2026年2月17日理事会承認)

<東京都地区>

菊池隆聖(一橋大学大学院) 高瀬詩穂美(東京大学大学院)

<中部・近畿地区>

李知垣(京都大学大学院) 高橋聖哉(名古屋大学大学院) 家高裕史(関西学院大学)

退会(2026年2月17日理事会承認)

津田壮章 中筋直哉

(事務局担当理事 伊藤泰郎)

学会事務局からのお知らせ

◆ 2026 年度 会費納入のお願い

年会費は一般会員が 6,500 円、大学院生会員が 4,000 円、学部生会員が 2000 円となっております。学会費の請求年度は毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとなっております。できるだけ早めの納入をお願いいたします。年会費は SMOOSY にてクレジットカードでお支払いいただくか、郵便振替でご納入いただけます。郵便振替はオンライン入金も可能です。右のゆうちょダイレクトの QR コードをご活用ください。

振替口座： 00140-4-703976 日本都市社会学会

ゆうちょダイレクトログイン：

https://direct.jpbank.japanpost.jp/tp1web/U010101WAK.do?link_id=ycDctLgn



2025 年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入していただきますよう重ねてお願い申し上げます。継続して 3 年以上会費を滞納した場合、原則として会員の資格を失うこととなりますので（学会規約 13 条）、その旨ご留意ください。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）との相互振込が可能です。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名	ゆうちょ銀行
預金種類	当座
金融機関コード	9900
口座番号	0703976
店番	019
受取人名	ニホントシシャカイガツカイ
店名 (カナ)	〇一九 (ゼロイチキュウ店)

◆学会ホームページの移転およびメールアドレスの変更

2025 年 4 月 1 日より学会ホームページとメールアドレスが変更となっております。

- ・ホームページ <https://urbansocio.smoosy.atlas.jp/ja>
- ・学会メールアドレス urbansociojp@gmail.com

◆ご所属先等変更のお願い

ご所属先やご住所等が変更となられた会員の皆様もおられるかと思えます。2025 年度より会員管理サービス SMOOSY を導入しておりますので、お手数をおかけいたしますが、会員情報の変更をお願いいたします。

◆「会員の新刊」コーナーについて

今号から学会ニュースはオンライン配信のみとなります。このためページの制約が少なくなることから、次号より「会員の新刊」として下記情報を掲載するコーナーを新たに設けます。

著者名、出版年、書名、発行所（出版社等）、紹介文（100字程度）

掲載を希望される方は下記の申込フォームに必要事項をご記入ください。右下のQRコードからも申込フォームにアクセスが可能です。

<https://forms.gle/Pr93HhJ4jt5zXGKZ9>

紹介文については、ニュース掲載にあたって編集の都合などにより修正をお願いすることがあります。申込は随時募集しておりますが、各号の締め切りはおおむね発行の1か月前となっておりますのでご注意ください。学会ニュースの発行は4月・7月・11月の年3回を予定しています。



(事務局担当理事 伊藤泰郎)